

第 3 3 回全国高等学校ハンドボール選抜大会

岩手県代表チーム 男子（東北第 1 代表）岩手県立不来方高等学校 （開催地代表）岩手県立盛岡第一高等学校
女子（開催地代表）岩手県立不来方高等学校

【男子大会展望】

男子は、第一シードに県立小林秀峰高校（九州ブロック 1 位）、第二シードに北陸高校（北信越ブロック 1 位）、第三シードに興南高校（九州ブロック 2 位）、第四シードに愛知高校（東海ブロック 1 位）が入った。どのチームも実力校であり、昨年の実績から見ると北陸高校と興南高校が優勝候補である。激戦九州ブロックを勝ち抜いた県立小林秀峰高校や最多チーム数の東海ブロックを勝ち抜いた愛知高校も優勝のチャンスは十分にある。シード校に続く上位有力校は、府立洛北高校、県立岩国工業高校、県立香川中央高校、県立不来方高校の各ブロック予選優勝チームである。新チームにおけるチャレンジマッチでは、特に県立岩国工業高校と県立香川中央高校の評判が高い。例年になく関東勢の調子が上がっておらず、今大会でどこまで上位に喰い込むことができるかで、状況が変わってくる。また、この年代は昨年の 7 月に日本代表としてユースオリンピックの予選に参加し、大型で意識の高い選手が揃っておりハイレベルの展開が期待される。

《不来方高校》

男子不来方高校は 10 年連続 16 回目の出場となる。過去には第 27 回大会と第 33 回大会で第 3 位を収めている。東北予選では、2 年振りの優勝を果たし東北第一代表として出場する。初戦は 26 日 12:30 ~ 花巻市総合体育館で、神奈川県代表の法政第二高校と対戦する。法政第二高校は、小柄ながら変則ディフェンスを駆使してチームを組んでおり、全国上位経験もあるので注意しなければならない。関東予選の結果から考えると不来方優勢ではないだろうか。3 回戦は 27 日 11:30 ~ 花巻市総合体育館で、釧路工業高校と市立桜台高校と神戸国際大学附属高校との勝者と対戦する。市立桜台高校（愛知県）が一歩リードであると予想するが、上位進出の可能性の低いチームである。準々決勝は 28 日 14:30 ~ 花巻市総合体育館で、優勝候補の北陸高校との対戦が予想される。しかし、北陸高校は、初戦から浦和学院高校、瓊浦高校と実力チームとの対戦が続くため選抜大会として番狂わせも考えられる。北陸高校とは 12 月の練習マッチで 2 勝 3 敗とほぼ互角に試合をしており、不来方高校としてこの試合が大一番である。北陸高校は昨年から全国出場している選手も多く経験豊富であるが、地元岩手の声援を後押しにこの試合をものにして頂点まで登りつめたい。

《盛岡第一高校》

男子盛岡第一高校は、5 年振り 5 回目の出場となる。東北予選では 2 位トーナメントで一回戦敗退し、開催地代表として出場する。初戦は 25 日 12:30 ~ 花巻市総合体育館で、富山県代表の氷見高校と対戦する。開会式直後のオープニングゲームとして緊張感が高まるが、地元開催として思い切ったプレーを期待したい。氷見高校は北信越ブロック第 2 代表で、全国大会優勝経験のある古豪である。盛岡第一高校は 1 年生主体のチームではあるが、ディフェンスを固め粘り強く守り抜ければ勝機はある。続く 2 回戦は 26 日 9:30 ~ 花巻市総合体育館で、第一シードの県立小林秀峰高校と対戦する。力の差があると考えられるが、一つ一つのプレーを大切に勇気を持って挑戦して欲しい。

【女子大会展望】

《不来方高校》

目標 : ベスト 8

対戦相手 : 1 回戦は栃木商業、2 回戦は華陵（山口）、3 回戦は松橋（熊本）か

特徴

昨年度はベスト 8 入りを果たしている。2 月の東北選抜大会でセンター鹿原花純（1 年）が故障して戦列を離れるアクシデントがあったが、チームを作り直してチャレンジしている。地力は十分にあるのでコンディションを整え、ベスト 8 を目標に大会に臨む。大山蘭那（2 年）、佐藤佳代子（2 年）のシュートに千葉紗希（1 年）のスピードを生かせれば勝機は十分にある。

男子

「北陸、小林秀峰に加え、不来方、岩国、香川に注目」

男子を左上から見ていくと、九州1位でエース谷之木を擁する小林秀峰（宮崎）と中国1位でエース久保を擁する岩国工（山口）と、ユース代表の決め手を持つ両者がこのパートを引っ張る存在。ここに巧者・氷見（富山）や旧チームの主力が多く残る洛北（京都）、勝負強い市川（千葉）が割って入る。伝統校の清水商（静岡）、国学院栃木（栃木）、湯沢（秋田）らもスタートダッシュで道を切り開きたい。

左下も愛知（愛知）、川口東（埼玉）らブロック予選1位校が入ったが、他のパート以上に混戦の様相。東北予選で力を発揮した学法石川（福島）や17年ぶり復活の関西大北陽（大阪）、初陣ながら激戦の九州でもまれている九州学院（熊本）、大舞台でのキャリア豊かな駿台甲府（山梨）、小松工（石川）らにも勢いをつかんで4強に躍り出るチャンスがめづってきそう。

右上パートも粒ぞろい。昨夏のインターハイ王者・興南（沖縄）や昨春3位の香川中央（香川）に目が行くのは当然として、2回の優勝を誇る藤代紫水（茨城）をはじめ、富岡（群馬）、熊本国府（熊本）、高岡向陵（富山）といった春にメダル実績のあるチームや、勢いのある大体大浪商（大阪）、四日市工（三重）らも、虎視眈々と上位をうかがう。

大会2連覇中で、平子、杉本ら旧チームからの経験者が軸となる北陸（福井）が入った右下パートには、地元期待の大型チーム・不来方（岩手）も名を連ねている。

4回戦で両者による4強争いが有力と見るが、予選ではケガ人に泣いてランクを落としたものの、関東屈指の実力を持つと評価されている浦和学院（埼玉）や、やはり九州予選1回戦で小林秀峰に屈し、順位を下げて登場となった瓊浦（長崎）、古豪の桜台（愛知）や気迫あふれる法政二（神奈川）、市岐阜商（岐阜）、新進の神戸国際大附（兵庫）ら、一発を期待できるチームもひしめく。

大会3連覇をめざす北陸をはじめ、小林秀峰、香川中央、不来方、岩国工といったあたりが、わずかに優勝争いをリードしている印象だが、絶対の地力、安定感を持った存在はなく、例年以上に多くのチームに頂点へと駆け上がるチャンスがありそう。伝統校ばかりでなく、歴代王者に新たに名を刻む新王者誕生の可能性も充分だ。

やるべきことをこなせる力、最大6試合の激しい戦いを走り抜ける体力を持つとともに、調子の波を抑え、目の前にあるチャンスをつかみ取れるチームは果たして？

女子

「洛北、四天王寺に前評判、宣真、市邨、小松らにも期待」

女子戦線を占っていきこう。トーナメント表の左上のパートでは、近畿大会をぶっちぎりの成績で駆け抜けた洛北（京都）の存在感が光る。多彩なDFフォーメーションを駆使し、今年も鉄壁の守備を完成させている。そこに対抗してくるのが大曲農（秋田）。スピーディーな攻撃を武器にこの壁を打ち破りたいところだ。そのほかにも伝統の力で上昇したい暁（三重）、DF強化が実を結び、九州大会を初優勝、11年ぶりのセンバツ出場となる神埼清明（佐賀）などがどこまで絡んでいけるか。さらに成長著しい駿台甲府（山梨）、国体に向けて波に乗りたい昭和学院（千葉）らも注目だ。

左下パートは、2大会連続のメダル獲得で春の戦いにめっぽう強い印象の高松商（香川）、若い力で勢いのある夙川学院（兵庫）、安定した力を発揮する飛騨高山（岐阜）らがひしめく。その飛騨高山と初戦であたる四天王寺（大阪）も高い個人能力と層の厚さでライバルたちを脅かす。大阪府予選では宣真の巧みなDFラインに苦しみ2位となったが、その実力の高さは優勝候補の一角にあげてもなんら問題ない。佼成女（東京）、高水（山口）らも虎視眈々と上昇を狙う。

右上のパートは、東北予選で大曲農と第2延長まで戦った聖和学園（宮城）、開催地代表で挑む不来方（岩手）、粘り強さのある栃木商（栃木）ら注目校がひしめく中、前出の四天王寺を破り、勢いづく宣真（大阪）、昨年からの経験を積む

選手が多く、JOC優勝経験のある1年生を加えた華陵（山口）が一步リードといった印象だ。

右下のパートは、前回大会の女王でインターハイ準優勝と力のある名経大市邨（愛知）が軸となりそう。得意のコンビプレーを武器に今大会も躍進できるか。また、好センターを擁する小松市立（石川）、U 16、ユース代表経験のある選手が揃う関東大会優勝の文大杉並（東京）、機動力のある湯沢（秋田）らの実力も高く、どこが勝ち上がっても不思議はない。

本誌編集部独断予想とお断りをした上で、今ベスト4に食い込んで来そうなのは洛北、四天王寺、華陵、宣真、小松市立、名経大市邨あたりと予想。とくにとともに順調に勝ち上がったとすれば対決が予想される左パートの洛北と四天王寺の準決勝はレベルの高いものとなりそう。

とはいえ、わずかなほころびが大きな乱れにつながったり、ここでの予想を覆し、台頭するチームも珍しくないセンバツ。主役となる新星が飛び出すことも期待したい。

DATA

男子

初出場を果たしたのは4チーム。念願の切符を手に入れた札幌西（南北海道）、女子部が20回の出場で伝統の力を示す聖和学園（宮城）は、男子部創部から2年で全国へ。新宮（福岡）、九州学院（熊本）もハイレベルな九州ブロックを勝ち抜き初陣へと挑む。

復活組では、開催地代表の盛岡一（岩手）と熊本国府（熊本）が5年ぶり。

通算出場回数では四日市工（三重）が24回で最多。それに氷見（富山）が23回、富岡（群馬）が21回で続いている。

連続出場に目を向けると、北陸（福井）の15年連続がトップ。香川中央（香川）、氷見も11年で安定した力を見せてついている。

女子

今大会、初陣となるのは、九州勢の佐世保商（長崎）と全国の常連・大分鶴崎を県予選で撃破した大分情報科学（大分）の2チーム。いずれも思い切ったチャレンジを期待したい。

復活組では明誠学院（岡山）が29年ぶり、県岐阜商（岐阜）が15年ぶりの出場で目を引く。神埼清明（佐賀）も11年ぶり、埼玉栄（埼玉）も8年ぶりのセンバツに意欲を燃やしている。

暁（三重）は30年連続31回目の出場で通算、連続出場ともにトップ。通算出場では桜花学園（愛知）の29回、昭和学院（千葉）の28回、小松市立、夙川学院の25回が続く。連続出場では19年連続の洛北（京都）が2位につけている。

以上